

使命は
重き若人の
(校歌より)

CONTENTS

P2 ▶ はじめに

P6 ▶ 活動披露会

P8 ▶ 演舞披露会

P11 ▶ 活躍する仲間

P15 ▶ 学校通信

Special Interview

～はじめに～



コロナ禍で…「疑問は創造の父」 校長 田村 隆弘

ニュートンが「万有引力の法則」を確立したのは24歳の頃、通っていたケンブリッジ大学が当時イギリスで流行したペストで閉鎖され、自宅で勉強していた時だったと彼の書簡に記されています。これには諸説あって、大学に通っている時から研究を始めていて、自宅にいたときに確立したというのが正しい表現であろうとのことですが、いずれにしても、ニュートンが、当時、ペストが流行する中で、この法則を見出したことには違いありません。そして、さらに凄いことには、彼がこの在宅学習の間に、万有引力の法則以外にも微分積分法の基本定理の発見や新しい光の理論を確立しているということです。

彼は、大学では当初、機械論を勉強していたそうです。当時の機械論というのは、今の機械工学科の皆さんが学ぶ機械とは少し意味が異なります。むしろ、哲学や物理学に近いところにありますが、例えば、梢から舞い落ちるこの葉が複雑な軌跡を描くのも、地球の重力や空気の抵抗がもたらす結果として動いている、つまり、あらゆる自然現象は力学の法則に従うと考える力学的な世界観に重なるというようなことです。

ケンブリッジ大学に保存されているニュートンのノートには、彼の創造の日々が垣間見られます。その中で彼が当時では最新とされる知見を学ぶ中で出てくる疑問を「若干の哲学的疑問」と題して「第一物質」、「原子」、「量」、「場所」、「時間と永遠」、「運動」…と45項目に渡って書き留めて、考察しているところがあります。この「疑問」の中で、最も独創的と言われているのが、現代では電気電子工学科の皆さんが学んでいる、光・電子デバイスの元

になる光学研究に関するもので、彼が科学者として最も成果を挙げた分野に成長します。

微分積分法の確立は、天文学や力学の問題を考える上での必要性に起因しています。まず、ニュートンは、ある瞬間の速度を求めたいという力学の問題から曲線の接線の傾きを表す微分法(当時の呼び方は流率法)を見出しました。そして後に、曲線で囲まれた図形の面積を求める積分法が微分の逆の操作であることを発見しています。

こうして見ると、万有引力の法則も彼が、自身で基礎的なことから最新の知識まで学習し、学んだことに対して「疑問」を持ち、その疑問に関連する知見を総合的に編集することで「創造」できたものであることが理解できます。

ニュートンの業績は、数学、自然学、天文学、神学、哲学などまさに枚挙にいとまがないほどに膨大ですが、人類は彼が創造した法則によって地球と月との往復を実現し、彼の生きた時代に比べると格段に豊かな社会に発展させました。これらもニュートンの数々の業績とその後の科学技術者の努力と創造力の結晶と言えるでしょう。

さて、本校の学生の皆さんも「未来」を創造する科学技術者を目指しています。「未来」は皆さんの創造力の結晶です。今、我々はペストならぬコロナ禍にありますが、ぜひ、この間にも様々な知識や技術を身につけ、それらを元に創造する力や、創造したものを表現する力を高めたいものです。大切なことは、ニュートンのように、学んだ知見や常識と言われることに「疑問」を持って、その謎を解き明かす努力をすることだと思います。「必要は発明の母」と言いますが、「疑問は創造の父」といったところでしょうか。

参考:島尾永康著;ニュートン、岩波新書、第6印、1985

Special Interview

～はじめに～



コロナ禍の先を見据えて

教育後援会会長 高畑 信之

本年度教育後援会会長を拝命致しました高畑と申します。会員の皆様、教職員の皆様には日頃より教育後援会の活動に多大なるご協力・ご支援を賜り、心より感謝申し上げます。歴史と伝統ある福井高専教育後援会会長は身に余る大役ではありますが、責務を全うすべく、微力ながら全力を尽くす所存です。皆様どうか宜しく願い申し上げます。

さて、世の中には様々な問題・課題が待ち構えています。海洋汚染や地球温暖化などの環境問題、少子高齢化に伴う労働力不足、5Gや自動運転といった技術革新など数えるとキリがありません。これらの問題・課題を解決するためには技術者が必要です。しかも、「優れた実践力と豊かな人間性、創造性を備え、社会の多様な発展に寄与できる」技術者です。福井高専はその様な技術者を育成する場であり、学生の皆様は自らの意思でこの福井高専を選ばれました。自らの選択を信じ、福井高専の基本理念である「優れた実践力と豊かな人間性、創造性を備え、社会の多様な発展に寄与できる技術者を育成する」のもと、知識だけでなく、自ら考える力も身に付けて下さい。その為には、授業以外の行事や課外活動への積極的な参加も必要です。教育後援会としても各種行事や課外活動の支援により、皆様の成長の一助となれるよう努力してまいります。

一方で、今、世界中が新型コロナウイルスに悩まされ、闘っています。社会全体では、感染者の治療や感染防止、更に経済との両立など困難な課題に取り組んでいます。教育の現場でも感染防止への配慮をしながら、学びを止

めない様々な施策を実行して頂いております。その様な中で、学生の皆様は入学式を始めとした各種行事の中止や縮小、長期に渡る遠隔授業など、これまでとは違った対応を強いられています。当然、現状への不満や将来への不安も大きいと思います。ただ、この状況を嘆いているだけでは前には進めません。この難局の中で、どう考え、どう行動するかで将来は大きく変わってきます。事実、Web会議等のネットワーク環境の整備や在宅勤務による働き方改革、遠隔授業からの発展による自学自習支援ツール整備など前向きな取り組みも出てきています。学生の皆様も今やるべきこと、今できることを考え、実行に移して頂けることを願っております。

今年度は各種行事の日程や内容が大幅に変更となっております。教育後援会としても、コロナ禍の先を見据え、少しでも学生の皆様のサポートが出来るよう、随時学校と相談しながら柔軟に対応していきたいと考えております。会員皆様の引続きのご理解、ご支援を宜しくお願い申し上げます。



Special Interview

～はじめに～

明るく、たくましく

1年担任 伊勢 光

早いもので今年も残すところあとわずか。本当に短く感じます。皆さんと顔を合わせて授業できるようになってまだ間もないからでしょうか。あっという間に一年が終わろうとしていることにとても驚いています。

上半期は大変な日々でした。授業中にお話した通り、無人の教室での授業は実に味気無かったです。私も暗い気持ちになりましたし、皆さんもそうだったでしょう。下半期、登校できるようになって皆さんの顔は本当に明るくなったと思います。対面でお話をし、学びを深め、一緒に部活をする。そんな当たり前の日々がどんなに貴重なものか。皆さんの顔を見て改めて気づかされました。皆さんの明るい顔を見られて今、とても嬉しいです。

その明るさを持続して前進してほしい、というのが私の最大の願いです。明るさも大事ですが、私たちは明るく、かつ前進しなければなりません。コロナ禍下の学生は学力が低い、ということになってほしくないのです。このコロナ禍の中、太陽のように明るく、麦のようにたくましく前進して欲しいと切に願うばかりです。

皆さんは決して一人ではありません。ともにこのコロナ禍の中で生きる仲間がいます。私もそうです。明るく連帯し、たくましくコロナ禍の世界を生き抜きましょう。私もまた皆さんと前進していきたい、そう思っています。

いつも日常のありがたみ

2年担任 山田 哲也

前期はほとんどの学生と教員が未経験な遠隔授業でしたが、9月から対面授業が再開して、これまでの日常が徐々に戻ってきました。学生が課題作成や実験・実習レポートに追われているのは、いつもと変わりませんが、学校に来てクラスメートと授業を受けたり、部活に励んだり、友人と他愛のない話をする学生たちを見ていると、このようないつもの日常がいかに尊いものかを改めて実感しています。

学生生活におけるいつもの日常を奪った、新型コロナウイルスの感染拡大はしばらく続くことが予想されます。

学生の皆さんはこのような状況にも負けず、健康に気をつけながら学生生活を十分に満喫してほしいと思っています。また学生生活を有意義に過ごす上で、勉強は非常に大切です。積み残しがないように計画的に勉強してください。わからないところがあれば、それをうやむやにせず友人や先生に聞きましょう。そして、困ったことや悩みごとがあれば、誰かに相談しましょう。必ず皆さんの強い味方になってくれるはずです。

それでは、コロナ禍で不透明な状況が続きますが、学生の皆さんも日常のありがたみを改めて感じながら、1日1日を大切に過ごしてください。皆さんの学生生活が充実したものになることを心から祈っています。

生活スタイルの強制的な移行について

3年担任 田安 正茂

令和元年度の年度末(2月末から3月にかけて)の行事は、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大の影響を受け、その実施方法の変更が求められ、それに対応できないものが中止されました。令和2年度が始まって、新たな生活スタイルの模索が継続され、ある一部は変更され、他の一部は以前の状態に戻り、現在に至っています。

3年生の皆さんは、このような状況下で新年度を新たな担任とともに迎えました。そして、ようやく始まった9月からの対面授業によって、担任の先生との関係性もそろそろ構築できた頃ではないでしょうか。

我々はこの経験を通して、生活のスタイルというものが、とてつもなく不安定な基板の上に形成されていることを深く認識しました。しかし、このような事象が発生したことによって、古い慣習という名のスタイルが強制的に移行させられたのも確かな事実です。しかもその変革が、今後の我々の生活スタイルに大きな影響を及ぼすのは間違いないでしょう。

新しい生活スタイルへの移行に対して、若い皆さんの対応力に期待するとともに、我々教員も古い慣習にとらわれず、新たなシステムにも積極的にチャレンジしなければなりません。これからも想像力と創造性を発揮して、次のステージに進んでいきましょう。

Special Interview

～はじめに～

やりたいことを育てよう

4年担任 亀山 建太郎

進路相談で「やりたい事がない」という話をよく聞きますが、「何かやってるんですか」と聞くと何もやってない。探していないのを見つけるわけがないよな、と思います。

一方で、大人もやりたい事と言い過ぎな気がします。自分は興味のある事を仕事に選びましたが、それが当時やりたい事だったかは確信が持てません(結果、やりたい事になりました)。

以前、文化系トークラジオLifeというPodcastで、柳瀬博一さん(当時日経ビジネスオンラインプロデューサー)が『とりあえず働け』と言っておられました。少々乱暴に聞こえますが、自分には経験から、『ランナーズハイの様に始めると気持ち良くなる事もある/仕事の中で見つけられる事もある』という風に聞こえました。やりたい事に悩むのなら「とりあえず」はアリかもしれません。

そもそも、会社はやりたい事だけで成立していませんし、やりたい事を優先するばかりでは物事は進みません。そう考えると、『この人のやりたい事なら手伝ってもいい』人が多数派の方が丁度良い気がします。

だからといって、仕事が適当で良いわけではありません。求められる人材によくある文言、「やりたい事・コミュニケーション力がある人」を、「自主的に動ける・周囲の意を酌める人」と読み替えると、何が求められているのかわかるとと思います。

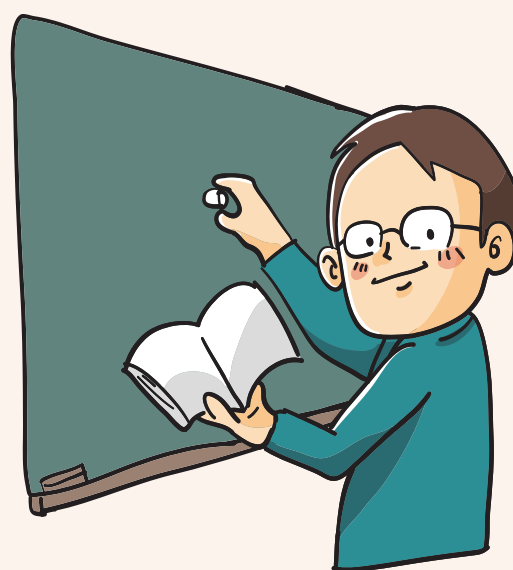
"求められる人材でありつつ、その活動の中から自分のやりたい事を育てていく"、そういう視点もまた、就職活動には必要なのではないかと思います。

五年生へ

5年担任 堀川 隼世

担任となって早いもので三年目も後半となりました。卒業研究がそろそろ佳境を迎えるところでしょうか。今年は二月、三月から様々なスケジュールの変更がありました。これは本校だけのことではない、異例の事態でした。ちょうど、二月、三月といえば就職活動が本格化する時期です。五年生の皆さんは学校行事だけでなく、各企業の説

明会、学校での企業セミナー、面接試験の日程やその方法、進学に関する入試のスケジュール変更など、刻一刻と変化する時世にも同時に対応せざる負えない状況になりました。しかし、実は今年だけではなく、集中豪雨や豪雪、東日本大震災、リーマンショックのように毎年大きな事が起き、世の中は変わっていることが分かります。皆さんは卒業後、この慣れ親しんだ周囲の友人、環境から離れ、変化する新たな環境に適応していかななくてはならず、そこには「例年と同じように…」という考えではなかなか通用しない状況が待っています。卒業したら急に今までできなかった事ができるようになったりはしません。五年生も残り僅かですが、気を抜かず今のうちから新しいことに取り組み、学び続けてください。卒業研究もあと一踏ん張り、頑張りましょう。



Special Interview

～活動披露会～

活動披露会について

学生主事補 千徳 英介

高専祭は新型コロナウイルス感染症の防止対策の一環として中止となりました。学生会では、7月中旬に各種学生会イベントの代替企画の開催について全学生へアンケートを実施し、回答数546名中410名(73%)が高専祭を開催したいと答え、代替企画の立案に至りました。代替企画は、名称を活動披露会と改め、その趣旨を「部・同好会や個人の活動発表をメインとして開催する」としました。

当日は、有志によるバンド演奏とダンスと宝くじ大会が行われました。会場で36名の学生に観覧いただくとともに、オンラインにてライブ配信し、トラブルなく無事終えることができました。

おそらく高専祭を企画運営し、盛り上げてやろうと意欲に燃えていた実行委員の学生にとっては、消化不良な部分もあったかと思いますが、この状況に柔軟に対応し、企画立案、出演者・観覧者の募集、会場準備、オンライン配信を学生主体で行えたことは称賛に値するものと感じています。

一方で、心残りなこともありました。オンライン配信では知的財産権侵害の問題からバンド演奏やダンスの音声を切らざるを得ませんでした。このあたりは学校としてなんとか解決できる方法があれば良いと思います。

最後に、次年度の高専祭が、今年の活動披露会の経験をもとによりスケールアップして開催されることを願っています。

活動披露会を実施して

高専祭実行委員長 電子情報工学科4年 佐野 友亮

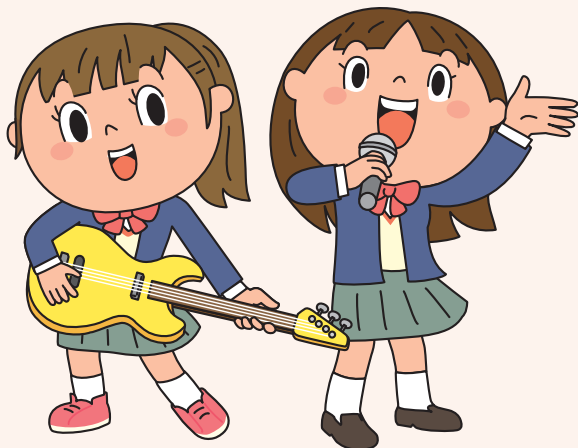
今年度の高専祭は新型コロナウイルス感染症の影響でやむを得ず中止となってしまいました。その代替行事として感染症拡大防止を徹底した形で活動披露会を開催しました。

活動披露会では、部・同好会や個人の活動発表を主として、バンドやダンスをステージ上で披露したり、学生全員参加型の宝くじ大会を実施したりしました。

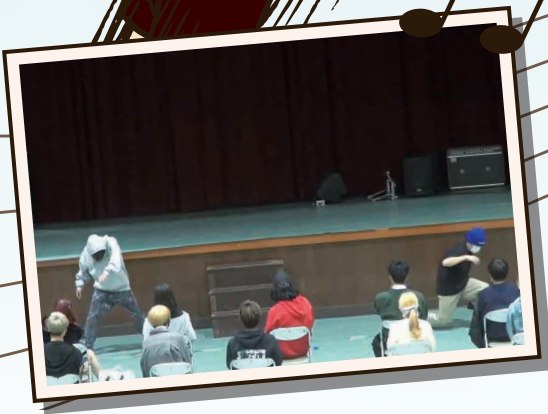
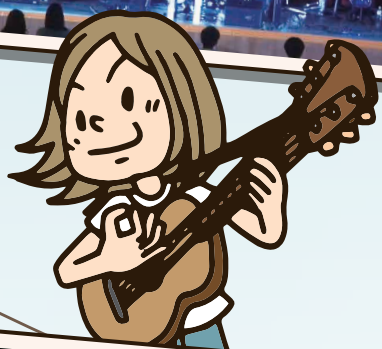
活動披露では、コロナ禍で多くの制限があり、満足のいく練習ができなかったかと思います。しかしながら、活力のある圧巻のパフォーマンスを披露してくれました。

今年度は、露店やゲストイベントを始めとした様々な企画が中止となってしまいましたが、例年の高専祭に劣らない素晴らしい行事となったと思います。

非日常的な状況での開催となりましたが、ライブ配信やオンラインでの会議などを取り入れ、来年からも活かせるような新しいことを学べたと思います。



～活動披露会～



Special Interview

～演舞披露会～



演舞披露会について



学生主事補 松井 一洋

この新型コロナ禍、体育祭自体は中止となりましたが、応援演舞を演舞披露会という形で行うことができました。

感染対策だけでなく、競技ルールや練習期間等、ほぼ全てにおいて例年と違う方法を取らざるを得ない状況で、新しい形の演舞を作り、表現した応援団。どの色も素晴らしいものでした。思い切り声を張り上げたかったでしょう、広いグラウンドで演舞したかったでしょう。我慢の中、やり切ってくれました。何より、今回の演舞披露会には、実行委員の多大なる努力が必要だったのは他でもありません。体育長の田中くん、応援長の小田くんを中心に、これまでの体育祭を踏襲できなくても今できる形を模索し、準備する中で試行錯誤を繰り返し、実現させてくれました。

また、無観客で開催するため、放送・メディア研究会の協力のもと、ライブイベント形式にて配信することもできました。学内アカウントを持っている人限定の配信でしたが、新型コロナ禍における福井高専の感染対策を踏まえた、「できる形の学校行事」をひとつ示せたのではないかと思います。

最後に、ご協力いただきました教職員の皆さま、誠に有難うございました。新型コロナの感染が終息し、保護者の皆さまや卒業生、近隣にお住まいの皆さま、関係の皆さまに学生の努力を直接披露できる日が戻ってくることを願っています。



演舞披露会について



体育祭実行委員長 電子情報工学科4年 田中 勇氣

今年は新型コロナウイルス感染症の影響により、体育祭の代替行事として演舞披露会を開催しました。そのため、「当日の声出し禁止での実施」「ライブ配信」など、新しいことが多くありました。中でもライブ配信では、著作権の問題など、今まで気づかなかった問題により、福井高専の行事を改めて見直すことができました。このことを通して、来年以降行われる福井高専の演舞披露会、体育祭をより良いものにできると確信しています。

教職員の皆様には、たくさんのお問題がある中惜しみないご支援をいただきました。皆様の協力がなければ演舞披露会は開催できなかったと思います。また、演舞(応援)団長の皆さんの演舞は例年の応援合戦に引けを取らない素晴らしいものでした。多くの制限があり、練習期間も短く、苦難の連続だったと思います。それでも、諦めることなく切磋琢磨してきたことが伝わるような内容でした。

コロナ時代の厳しい中、演舞披露会を成功させることができたのは協力してくださった皆様のおかげです。本当にありがとうございました。



～演舞披露会～

白組



青組



黄組



緑組



～演舞披露会～



おめでとうございます！



演舞披露会に参加して



電気電子工学科3年 野尻 翠

私は応援団に入るのは3回目です。体育祭は高専の最大ともいえるイベント行事です。

普段は夏休みから練習が始まりますが、今年は10月半ば頃から練習が始まりました。放課後になると応援の練習が始まるので放課後に楽しみができました。私たちの組は黒いTシャツにそれぞれ絵や文字などをスプレーでデザインしたり、少し他の組に比べて面白おかしくしたりしている部分もあったりととてもとても明るい組だと思います。しかし、真剣に踊っているところもあるので、やる側も

見る側も楽しむことができると思います。

応援団に入ると練習はもちろん楽しく、また先輩方や後輩の関わりが増え交流(関係)が広がります。さらに、コロナがない時は先輩方が昼ごはんや夜ご飯に連れていてくれることもあります。先輩方はとても優しく、練習期間も短くはないため、振り付けを完璧にし、本番ではみんな一体となり最高のパフォーマンスをすることができました。また、この後先輩方に勉強を教えてもらったり、後輩とより仲良くなったりと、高専生活がよりよいものになると感じました。応援団は目標に向かってがんばること、協力して何かをやり遂げること、そして何事にも挑戦し最後まで諦めないことの大切さを学ばせてくれました。

演舞披露会成績一覧

1位 黄組	2位 白組	3位 緑組	4位 青組
-------	-------	-------	-------

Special Interview

～活躍する仲間～



起業家甲子園2020に出場して

電子情報工学科4年 佐野 友亮

私たちは、2020年3月にオンラインで行われた「起業家甲子園2020」に出場し、4つの企業賞を受賞しました。この大会は、ICTを用いて開発した商品・サービスについて、独自性や実現可能性、将来性などをプレゼンし、競い合うものです。

今回、私たちは「ハビット」という歯の健康チェックアプリを開発しました。担当の先生やメンター、福井大学医学部の方など、たくさんの方から助言を頂き、チーム全員で力を合わせて開発を行いました。

今回得た貴重な経験を生かし、今後も精力的に開発を行っていきます。応援ありがとうございました。



令和2年度 教育後援会研究奨励一覧

学科・学年	申請者	研究題目	指導教員	交付金額(円)
環境都市工学科3年	田中 ころこ	全国高専デザインコンペティション 紙を用いた橋梁模型の製作	樋口 直也	100,000
機械工学科3年	上坂 征生	全国高専ロボットコンテスト 高専ロボコン出場ロボット「おいわいわいロボ」の開発	亀山 建太郎	150,000
機械工学科4年	戸井 康貴	全国高専ロボットコンテスト 高専ロボコン出場ロボット「ふくじん」の開発	千徳 英介	150,000
機械工学科3年	福谷 和信	Hondaエコマイレッジチャレンジの参加	門屋 飛央	100,042
電気電子工学科5年	江守 祐樹	DCモータのベクトル化制御による ドローン滞空制御に関する研究	秋山 肇	100,000
電子情報工学科5年	三崎 和紀	ISAP2020 Student Contest: Antenna design 文字形4素子アレーアンテナの設計	川上 由紀	80,240
機械工学科4年	木村 竜己	図書館のオリエンテーション動画の撮影及び編集	西 仁司	86,640

合計 766,922

Special Interview

～活躍する仲間～

令和元年度 教育後援会奨励研究概要報告

デザコンに参加して

環境都市工学科3年 渡辺 瑚乃羽

私たちは、2019年12月に全国高等専門学校デザインコンペティション2019in東京の構造デザイン部門に参加しました。

今回の競技の内容は、50kgの载荷に耐える紙製の橋梁模型の作成でした。前回とは違う材料で構造を考えるのがとても難しかったです。本番では50kgに耐えることができ、結果としては13/62位でした。今年はこれまでチームを引っ張ってくださった5年生が抜けるので、その分を精一杯頑張ります。

私たちがデザコンへ参加することができたのも多くの方々の協力があつたからこそです。本当にありがとうございました。

今年の目標

環境都市工学科4年 小嶋 杏佳

私の中学生の頃の夢は建築士になることです。新入生向けの部活紹介で初めて空間デザイン研究会の存在を知りました。経験を多く積むために入部しました。一年生から三年生まで、何度も作品を提出する機会がありました。しかし、Sketch Upが半分くらい完成したら新しい案を作って時間を失い、期限内にひとつの作品も完成させて提出することが出来なかった。今年の目標は作品を完成させて提出することです。そのためにテーマの設定から始めて、デザインは毎日確実に進めて、濃い一年を過ごしたいと思います。

全国高等専門学校デザインコンペティションに参加して

環境都市工学科3年 田中 こころ

私たちは、紙を用いてトラス橋を製作しデザコン2019 in Tokyoの構造デザイン部門に参加しました。

今回は初めて参加するメンバーが多く、かつ、紙を用い

て橋梁模型を製作した経験も無かったため不安なことも多かったですが、担当の先生や先輩方に教えて頂きながら作品を完成させました。今回の競技の内容は50kgの载荷に耐えるというもので、全体の結果は15/62位でした。私は今回で2度目のデザコンでしたが、他の高専との交流を通して学んだ点も多くありました。次年度は今回の経験を活かし、より良い結果を残せるよう頑張りたいです。

協力してくださった皆様、ありがとうございました。

高専ロボコン2019に出場して

機械工学科5年 木谷 太一

私たちAチームは、「アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト2019」に出場するためのロボットを製作しました。今回の競技は、ロボットが様々な高さの竿に洗濯物を干し、その得点を競う競技でした。

今回はチーム名「あしすたーず！」で参加しました。製作したロボットは「妹掛」「巻姉」の2台で、自動制御に挑戦しました。両方とも自動制御なので、2台の連携が難しく、今年は満足した動きが出来ませんでした。

全国大会に出場することは叶いませんでしたが、今回培った制御の技術を生かして、来年こそは全国大会出場します！

最後に、日頃から応援していただいた皆様に感謝いたします。これからも精一杯活動して参りますので、今後とも応援よろしくお願いいたします。

高専ロボコン2019

機械工学科4年 松山 亮太

私たちBチームは、「アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト2019」に出場するためのロボットを製作しました。今回の競技は、洗濯物台に置かれたTシャツ・タオル・シーツを回収し、1m・1.5m・2mの物干し竿に干し、得点を競い合います。

今回、製作したロボットは2台で、手動ロボットの「ウォッ

Special Interview

～活躍する仲間～

シング.O.G3」と自動ロボットの「JAVAJA ver.3」です。ウォッシング.O.G3はTシャツを3Dプリンターで作成したパーツを用い、一度に8枚干すことが出来ます。JAVAJA ver.3は手をモチーフにした機構を用い、バスタオルとシーツを綺麗に干すことが出来ます。

東海北陸大会では技術賞と特別賞(株式会社安川電機)を受賞し、全国大会に審査員推薦枠として出場しました。日頃から応援していただいた皆様に感謝いたします。また今後も精一杯活動して参りますので、応援よろしくお願いたします。

自立制御による自動帰還装置の開発

機械工学科5年 江指 光紀

本同好会では令和元年度の奨励研究で、小模擬人工衛星の製作を行いました。

当初の目的は前年度の機体の改良でしたが、機体の大きさや形状により地面の段差や凹凸などによって走行不能になることも多く、これ以上の改良は難しいと判断し、新しい機体を作製することにしました。新型の機体は、旧機体からの反省を活かして軽量化や精密性のために設計及びマイコン・部品の選定など新型の機体を完成に向けて時間を費やしました。今後は、組み立てや実際の実験など、さらに高い完成度、信頼性を目指し、活動していく予定です。

歴史的文献の整理

機械工学科3年 武村 帆香

私たち地球物理学研究会では、昨年度に引き続いて、福井地震等の重要な文献を写真に撮り、PDFに変換する作業を行いました。台に固定したカメラの真下に文献を広げ、一枚ずつ手で撮影したあとに、画像加工ソフトで明るさやコントラストを調整し、写真の中の無駄な部分はトリミングをしてからPDF化を行いました。古い文献は丁寧に扱わなければならない、また、数に限りが存在するため、貴重なデータをPDF化することで、事故や災害で資料が失われることを防ぎ、広く地震についての情報を発信する活動の良いデータ基盤になると考えています。

微生物のDNA塩基配列を解読したい!

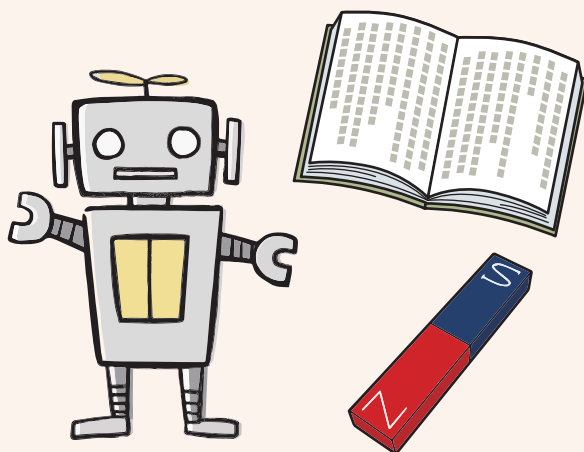
環境システム工学専攻2年 伊藤 沙也加

私は物質工学科の松野研究室で微生物を用いた研究を行っています。ギ酸は微生物を利用する“ものづくり(有用物質生産)”にとって重要な材料です。私は卒業研究において、ギ酸の存在下で生育できる微生物を発見しました。しかし、その種類は特定できませんでした。この度、教育後援会のご支援によって、この微生物のDNA塩基配列の解読に成功し、発見した微生物は酵母の一種であることが特定できました。本研究成果は、国際会議の英語ポスター発表、国内学会の口頭発表、によって公表しました。みなさん! 私たちと一緒に微生物を研究しましょう!

強力永久磁石を用いた小電力発電に関する研究

電気電子工学科卒業生 前川 猛、中村 優介

私たちは物心ついた時から太陽電池が当たり前のように身近な存在として感じてきました。高専に入学して専門的な知識を得ることで、太陽電池以外にも環境にやさしい発電方法が研究され実用化を目指して努力が為されていることを知りました。磁石を用いた小電力発電もその一つです。原理の解説を聞いた時はとても単純なように感じたので「自分達で実際に体験してみたい」という思いから教育後援会の皆様に補助を頂いた次第です。試作機を一から製作するにあたり電気科の先生をはじめ多くの方にお世話を頂きました。改めて御礼申し上げます。



Special Interview

～活躍する仲間～

宇宙アイデアソン2019

環境都市工学科5年 岸本 拓海

私は4月から宇宙アイデアソンに取り組みました。宇宙アイデアソンとは宇宙にあると便利なものを考えるという地元活性化のプロジェクトです。私がこのコンペティションに向けて考えたアイデアはAR機能や音声認識システムを搭載したメガネです。

しかし、このアイデアを実現するにはいろいろな課題がありました。宇宙には空気が無いため、一番大きな課題としては音が存在しないことです。この課題に取り組むために私は流体数値シミュレーションを用いて息の強さで操作できる新しい道具をつくろうと思いました。

結果的に宇宙アイデアソンでは結果を残すことができませんでしたが、良い経験になったと思います。

宇宙アイデアソン2019

環境都市工学科5年 佐治 糸音

私達は、6月15日に行われた「ふくい宇宙アイデアソン」に参加しました。そこで、私たちが提案したものが「ちぢまる一む」です。ちぢまる一むとは、円筒状で、折りたためるプライベート空間のことです。これは、ISS（国際宇宙ステーション）内の限られた空間を有効活用することができます。この提案の結果、優勝し、ISTS福井大会のポスターセッションに参加しました。その後、航空・宇宙機器開発発展に向け模型の作成、CADを用いたイメージ作成を行い、航空・宇宙機器開発発展に出展することができました。

インドア模型飛行機の製作

電気電子工学科4年 内田 祐輝

近年のモーターやバッテリーの小型化、発砲材料やカーボンの多様化に伴い、体育館などで飛ばせる模型飛行機の製作が可能になりました。

そこで私たちは、ネット上で公開されている情報を元に、小型軽量の模型飛行機を製作しました。当初は、3ヶ月ほどで製作できると思っていたのですが、レーザーカッ

ターで材料を切り出したり、主翼を取り外しできるように改良したりで、1年近くかかってしまいました。

面倒なことが多かったですが、指導教員と共に完成させ、飛ぶことが確認できました。

完成した模型飛行機は、翼幅80cmほどで100g程度と軽く、今後飛行調整をして思い通りに飛ばせるようにしたいです。このような貴重な経験をさせて頂けたことに大変感謝しています。

活動内容報告

機械工学科3年 福谷 和信

HONDAが主催する、エコマイレッジチャレンジに出場するため、私たちは車両を製作しました。エコマイレッジチャレンジとは、自作の車両にバイクのエンジンを載せてサーキットを走り、速さではなく燃費を競い合う大会です。今年度は、以前大会に参加した車両のエンジンやブレーキ等の部品を修理し、まっすぐに走るように調整しました。特に、エンジン整備では車の走る仕組みを自分の身をもって学びました。今年度は不参加でしたが、この一年で車両部品の設計や整備を行い、大会への準備は着実に進んでいます。来年度は大会出場を目指します。



～学校通信～

部・同好会の紹介

部活動として体育部が20、文化部が7、同好会が15あり、幅広い分野で活発な活動が行われています。



体育部 男子バスケットボール

高校チームは公式大会2回戦突破、高専チームは全国大会出場が目標です。今年度は大きな大会がほとんど中止になり、練習できない期間もありましたが、初心者から5年生まで練習に打ち込んでいます。

指導教員 松井 一洋、米田 知晃、藤田 卓郎、阿部 孝弘



体育部 女子バスケットボール

私たち女子バスケットボール部は、とても仲が良く、楽しく活動しています。特に大会前は本番に備え練習しています。ゆるく楽しくバスケットをしているので興味がある子は気軽に声をかけてください！待っています！

指導教員 後反 克典、坂元 知里



体育部 ラグビー

ビーチラグビー、タッチラグビー、たんぼラグビーなど、接触プレーのない男女合同で行える大会への出場を目指し、新入部員を募集しています。初心者大歓迎です。2019年のワールドカップで興味を持った方は是非、チャレンジしてください！

指導教員 吉田 雅穂



文化部 英語

木曜日の放課後に先生と部員の人たちと英会話をしたり英語でゲームをしたりします。部員みんなで色々な企画を立てて活動を行っているため、英語のスキルは勿論のこと、コミュニケーション能力も高められます。楽しめる部活なので是非気軽に来てみてください。

指導教員 藤田 卓郎、原口 治



同好会 空間デザイン研究会

昨年までは失敗を恐れて、作品の提出が出来ない状況でした。設計コンペの実績は卒業後の進路に有効であることを知り、今年に入り、私はデザインコンペティション等に3つの作品を応募しました。次の作品は数値解析などを用いてリアルな作品に仕上げます。

指導教員 野々村 善民



同好会 小型模擬人工衛星

Cansatと呼ばれる、宇宙技術を模擬的に習得できる競技を主な活動として行っている部活です。現状では部員が少ないですが、宇宙分野に関連することならば、なんでも挑戦するので、興味があればご連絡ください。

指導教員 西城 理志、亀山 建太郎、千徳 英介

その他の部・同好会一覧

体育部門

- ・陸上
- ・卓球
- ・サッカー
- ・野球
- ・男子バレーボール
- ・女子バレーボール
- ・バドミントン
- ・テニス
- ・ソフトテニス
- ・柔道
- ・剣道
- ・ハンドボール
- ・ソフトボール
- ・少林寺拳法
- ・水泳
- ・合気道
- ・軟式野球

文化部門

- ・モダンミュージック
- ・吹奏楽
- ・囲碁・将棋
- ・ロボット
- ・放送・メディア研究会
- ・アマチュア無線研究会

同好会

- ・天文
- ・茶道
- ・日本現代視覚文化
- ・サイエンスクラブ
- ・フットサル
- ・ダンス
- ・音鍵研究会
- ・Structural Design研究会
- ・スポーツライミング
- ・写真
- ・グラフ電卓研究会
- ・珈琲
- ・プログラミング研究会

Special Interview

～学校通信～



北陸を旅して

機械工学科 伊勢 大成

今年度より機械工学科に着任した伊勢大成です。出身は富山県ですが、学生時代から昨年までは石川県での生活が長く、石川高専、金沢大学で学び、前職は国際高専(前 金沢高専)で勤務し、主に機械系のものづくりに関わる実習の授業等を担当していました。この度、縁あってこの福井に来ることができ、ゆっくりと北陸を旅しているようです。

北陸3県は近い場所ではありますが、それぞれ特色があって面白い地域です。特に、自分の足で歩いてみると、その土地の雰囲気を体験でき、多くの発見があります。昨年は趣味のマラソンで白山白川郷ウルトラマラソン(100km)を完走してみて、県を跨いだ土地の繋がりを感じることもできました。毎年登山をしている白山も、三方五湖から望むとまた違った感動がありました。

このように、身近なものは、少し離れてみると、その良さや別の一面に気づくことが多いです。在校生の皆さんにとっては、福井高専の環境が当たり前になっているかもしれませんが、高専の中でもそれぞれ各校に伝統と特色があります。他の高専と比べると、本校は体育祭の応援合戦に代表されるように、元気の良さ、礼儀正しさが秀でているように感じています。

学生の皆さんには、自分をより深く知り、社会の中で活躍できるように、この福井高専でなるべく多くのことを学んでもらえたいと思います。そして、私自身も、皆さんと一所に多くを学んでいきたいです。機会があれば、福井の良いところ、福井高専の良いところを、是非教えてください。



無限の可能性

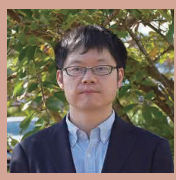
機械工学科 高橋 奨

今年度より機械工学科に着任した高橋奨です。私の略歴としては、博士課程卒業後、産業技術総合研究所にてポスドクとして、大学で非常勤講師として、2年ほど働き、今年度福井高専へ着任しました。機械工学科ではありますが、専門はセラミックスやポリマーを用いた複合材料の合成といった主

に材料関係の研究を行っております。学生時代、機械系の力学を学ぶ際にたびたび登場した質量 m 。「質量とはなんだ?どこからやってくるのだ?」という疑問を抱き、そこから元素を取り扱う研究に興味を持ったことが現在の研究分野に踏み込むきっかけでした。福井高専の学生もちょっとした疑問や興味を見つけ、探求していくことをぜひ学生生活の中で行ってほしいと思います。

さて、私が高専について興味を持ったのは、学生時代の研究室に宇部高専の先生が材料測定に行いに来ており、その際に高専について色々とお話して下さったことが大きく影響しています。教育・研究どちらもプロフェッショナルに取り組む姿勢を見て、私も宇部高専の先生のような教員を目指したいと思いました。教育と研究を両立しながら、学生の可能性をできるだけ伸ばし、また、自分の可能性も拡張していけるような教員になれるように努めていきたいと思っています。

これからどうぞよろしくお願いいたします。



「空の青さを知る」所

物質工学科 古谷 昌大

『先生、とんでもない所に来ましたね。』着任して約半年の間に、学生二人からこう言われた。勿論冗談半分で言ったのだと思うが、別個に二度も言われたのが面白く、着任したということもあり、それをきっかけに福井高専という場所の意味を考えてみることにした。

福井高専は学生にとって、そして私にとってどんな場所になるのだろうか? 学生の様子を観察しながら辿り着いた、現在の私なりの答えそれは「井」である。

「井の中の蛙、大海を知らず。」この有名な諺には続きがあり、「されど、空の青さを知る」という。

福井高専は、「蛙」たちが「大海」から一定期間一定の距離を置いて、「空の青さ」に魅せられるための「井」なのではないだろうか。進学や就職を経て学生たちはやがて、厳しくも華やかな広い世界に飛び出していく。それまでの三年間…より少し長めの五年間のうちに、勉学も交友も、雑音に邪魔されることなく堪能できる場所、それが福井高専であると思う。

学生同様、今春着任した私もまた、一匹の「蛙」である。但し、多少なりとも「大海」を経験し、今となっては「井」の『とんでもない』良さも有難さもわかる「蛙」である。エネルギーで、実は素直な学生たちと一緒に、果てしない「空の青

Special Interview

～学校通信～

さ」を「井」の中から心静かに眺め、感動し、共にますます成長していきたいと考えている。



福井の歴史について 思うこと

一般科目教室 木村 美幸

福井高専の採用面接を受けたときのことである。福井には以前調査やサークルの大会で三回ほど訪れていたが、いずれも福井市周辺のみしか探索できなかったのも、それ以外の場所をまわることにした。面接の前日は、若狭町に行き、佐久間勉記念交流会館を見に行った。佐久間勉は、潜水艦の事故で亡くなった海軍軍人である。事故で亡くなる際に、潜水艦の不調について詳細なメモを残しており、乗組員一同が最後まで持ち場を離れず職務を遂行したことが、「沈勇」だとして、戦前の教科書にも掲載された。現在でも「軍神」として神社が建てられている。

面接後は、そのまま鯖江の嶺北忠霊場に向かった。鯖江は日清戦争後に陸軍歩兵第36連隊が設置され「軍都」として栄えた。鯖江市役所北方にある嶺北忠霊場は、この連隊から出た戦病死者などの慰霊空間である。日露戦争期までは個人墓が建設されているが、満州事変以降の戦死者が増大する戦争においては個人墓の建設は難しく合葬墓へと変遷していく様子が良く分かる。

このように、私自身が研究する軍隊にゆかりのある土地に赴任できたことを嬉しく思います。これからどうぞよろしくをお願いします。



肺に穴が空くこと10回、盲腸 破裂し腹膜炎で死にかけた男

物質工学科 山脇 夢彦

本年度本校に着任した山脇夢彦（やまわきむげん）です。名前はずいぶん覚えてもらえると思います。はじめに、本校着任からこれまで、沢山の教員、職員、学生の皆様に支えられてきました。この場でお礼申し上げます。

さて、表題で“いきなりなんなんだコイツ”と思ったことでしょう。私は28歳ですが、これまでに何度も九死に一生

を得ています。私はバドミントンを幼いころからしていますが、高校の時に週10回の練習で肺に穴が空きました。主治医に手術を促されましたが、練習を休みたくなかったので拒否しました。その結果1年だけで8回肺に穴が空き、何度も息ができなくなりました。そして、9回目の時、死にかけて緊急手術をしました。肺の一部は失われましたがバドミントンは続けました。10回目は大学で西日本の大会中でした。息ができませんでしたが、何とか勝利をおさめ、帰って緊急手術をしました。この時は最新技術で肺の周りにセルロース膜を付けてもらいました。私の前職は医薬品製造の研究開発職でしたが、入社研修時に盲腸になりました。しかし私は盲腸に気づかず1週間耐え抜きました（もちろん痛かったです）。その後、腹膜炎になり、緊急入院し、2週間の絶食を経て奇跡的に薬が効き、生きることができました。

皆さんはご自分の体を大切にしてください。



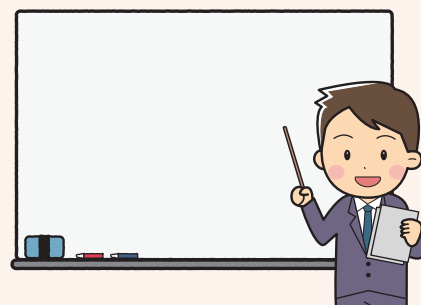
はじめまして、稲垣です

事務部長 稲垣 幸三

4月1日付けで、事務部長に着任致しました稲垣と申します。前職は岡山大学で学生支援を担当しており、また10年ほど前には奈良高専で学生課長をしていました。

出身が大阪で、これまでの異動も近畿地区を中心に動いていたので、人混みと通勤ラッシュの毎日でしたが、福井に赴任し、自然に恵まれた環境で、福井鉄道にはラッシュも無く「こんな生活をしていて街の生活に戻るのか？」っと不安に思う今日この頃です。

普段皆さんとお会いする機会は少ないですが、これまでいろんな大学で培った知識と経験で、少しでも福井高専の皆さんの役に立てよう頑張りますので、よろしくお願いします。



Special Interview

～学校通信～



新任のご挨拶

総務課長 小林 正幸

このたび総務課長に着任しました小林正幸です。どうぞよろしくお願いいたします。

私は、石川高専、富山高専に次いで、本校で高専は3校目になります。高専に勤務してみて、その良さがわかりました。高専は大学に比べて教員や学生が近くに感じます。それに、学生の皆さんは優秀ですね。キャンパスツアーでのプレゼンなど素晴らしいです。

ところで、最近の関心事はメタボの解消です。秋・冬の衣替えで数本のスラックスのウエストが…。まあ、少し頑張ります。

これからお世話になります。今後も組織マネジメント力を鍛えて、私なりに努めていくつもりでありますので、皆様のあたたかいご指導をお願い申し上げます。



本校に赴任して

総務課施設係長 増永 治弘

みなさん、こんにちは。はや、本校に赴任して7カ月が過ぎ、もうすぐに解禁時期となり、福井の食べ物がおいしい季節となってきました。それと合わせてこの時期くらいから冬将軍がしたたかに参上する頃となり、ウィンタースポーツの腕がなるかなと思うところです。また、最近は本校南側に見える村国山の頂上付近からパラグライダーが舞い降りてくるという環境で、巷では「風の谷のムラクニ」と呼ばれるフライトエリアとなっており、このような中、毎日軽やかに通勤しております。さて、私の所属している施設系の主な業務は、修繕は元より建物の新築・模様替え等や長期にわたる施設計画、維持管理を行っている部署で、みなさんが快適に安全・安心に過ごせる施設を担うよう努め、不具合等があれば迅速に対応する所存でございます。また、施設面でこんなこと・あんなことができないかなど疑問点、ご相談等ありましたら、気軽にお問い合わせください。



貪欲にいきます！

教育研究支援センター 林田 剛一

本年度より本校に着任しました林田剛一です。現在は環境と機械で実験実習の支援をさせて頂いています。前々より教育に関して強い興味があり、今回着任が出来まして非常に嬉しく思っております。

さて実は私、環境系に触れるのが初めてでありまして、業務を通し新たな専門を学ぶという非常に貴重な経験をさせて頂いています。この経験を血肉とし学生の皆さんへ還元できるように努めて参ります。改めまして宜しくお願いします！



挑戦する気持ちを忘れずに

学生課課長補佐 山本 恭弘

27年ぶりに高専に戻ってきました。当時は、昼休みは野球に、夜は陸上の練習に励み、仲間と過ごした充実した日々は良い思い出となっています。今でも当時の挑戦する気持ちを忘れずに、フルマラソンでサブ3を目標に練習に励んでいます。日頃、学生の皆さんにも何か目標を持って、様々なことに挑戦して欲しいと思っています。学生の皆さんがこれからも充実した学校生活が過ごせますようにサポートさせていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。



Special Interview

～学校通信～

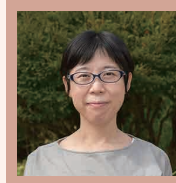


本校に着任して

総務課人事労務係長 酒井 友幸

8月1日付で約3年ぶりに福井高専に着任しました酒井と申します。前任地の敦賀では、主に原子力関係研究費の執行及び人件費管理、監査対応等を担当していました。電車の関係で朝が早かった為、子供2人を幼稚園に送り、その後、本校で、学生さんや教職員の方と挨拶を交わし、始業時刻を迎えることをありがたく感じています。

誠実に職務に従事し、頼りとされる職員であれるよう努力します。ご指導、ご鞭撻よろしくお願いいたします。



高専とルービックキューブ

学生課 情報サービス係 竹内 美佳

8月1日付で福井大学より参りました。図書館と事務情報化推進室の業務に携わっています。

娘がイラスト付ルービックキューブを元に戻せなくなった時(柄の向きもあるから難しいんです)、6面をキレイに合わせてくれたのが、当時福井高専に通う、友達のお兄さんでした。感動しました!ちなみに私は1面もできず。

そんな高専生を支援する図書館にしていきたいと思いますので、どうぞよろしくお願い致します。

それでは図書館でお会いしましょう!



地元でガンバルぞ～

総務課財務係 川崎 瑞貴

8月1日付けで総務課財務係へ着任致しました。前職は石川県能美市にある北陸先端科学技術大学院大学で入試業務を担当として、勤務しておりました。4年間、大学敷地内の宿舎から通勤し、週末には地元の鯖江に戻るとい生活をしておりました。

この度、地元の高専に勤務できることを大変うれしく思っております。

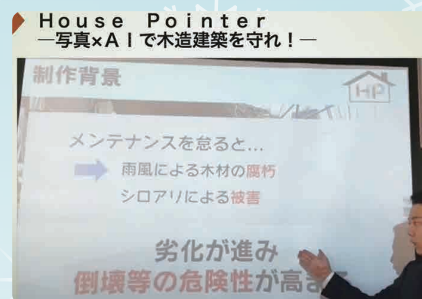
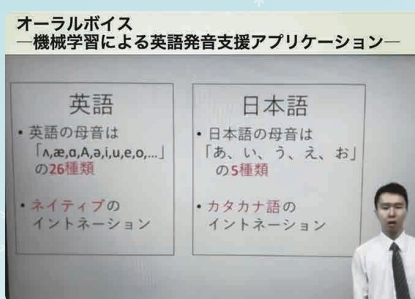
私にとっては、本部署が2つ目の部署となり、現在は皆様に教わりながら(足を引っ張らないように…)多岐に渡る業務を必死に覚える毎日です。

皆様には、ご迷惑をお掛けすることもあるかと思いますが、精一杯努力して、経験や知識を身に付け、本校に還元していきたいと思っておりますので、ご指導の程、よろしくお願い致します。

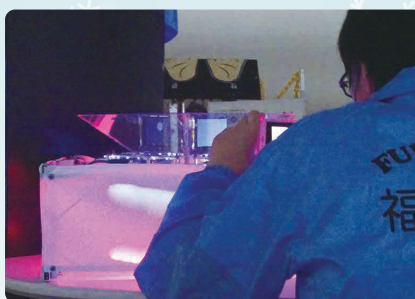
(オフには、地域のサッカー指導や旅行でおいしいものを食することなどを楽しんでいます。陸に走る車は全て免許取得済みです!)



令和2年度学校行事写真



全国高専プログラミングコンテスト



高専ロボコン東海北陸地区大会



編集後記

本年度はコロナ禍の影響で、青武台だよりは普段とは異なる発行時期となっており、4月から着任された先生方のご挨拶が載っております。皆さんには既に馴染んでいるかもしれませんが、先生方のことを更に知る良い機会となるのではないのでしょうか。また、学生会の尽力の下、例年とは違う形で行われた学校行事も掲載されているので、是非ご一読ください。(西城)

青武台だより

独立行政法人国立高等専門学校機構 福井工業高等専門学校
発行日：令和2年12月25日

お問い合わせ

福井工業高等専門学校
〒916-8507 福井県鯖江市下司町
TEL:0778-62-1111